

# 親和会会報

向坊隆書

25号

2010. 10



## 根岸英一先生 ノーベル化学賞受賞!!

根岸英一先生（バデュー大学特別教授）が2010年度ノーベル化学賞受賞という快挙を成し遂げられました。

根岸先生は昭和33年工学部応用化学科（現在の化学・生命系3学科）を卒業された親和会会員であり、心よりお慶び申し上げます。

親和会会長 加治 久継

## 総会・懇親会のご案内

記録的な猛暑も去り、秋の深まりの感じられる今日このごろ、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。本年も、恒例となりました、年に一度の親和会総会・懇親会のご案内を差し上げる季節となりました。

会場を本郷キャンパスに戻して二年目となる本年の懇親会では、現在の工学部化学・生命系三学科・専攻の近況のご報告の他、親和会会員の皆様に旧交を温めて頂くための様々な仕掛けをご用意させて頂きました。お世話になったあの先生は？／同期の彼は？／あの娘は？／など懐かしい方へのリクエストにも、出来る限りお応えしたいと思います。幹事一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

残念ながら、今回はご都合がつかないという方からの、親和会・懇親会へのメッセージもお待ちしております。事務局までお寄せ下さい。

## 第159回親和会 総会・懇親会開催

日時：11月23日（火・祝日） 16:00～18:00  
場所：東京大学本郷キャンパス 山上会館 地階 御殿  
会費：前納 7,000円（同封の振込用紙をご利用下さい）  
当日 9,000円  
☆昭和32年以前ご卒業 前納 4,000円  
当日 5,000円

運営幹事：昭和60年卒・平成7年卒

参加者情報：URL <http://www.chem.t.u-tokyo.ac.jp/shinna/>



浅野正門  
弥生門

正門 本郷通り 山上会館 赤門

# 温故知新

ーすべての物事にはピークがあるー

瓜生 敏之 (平成11年退官)



2010年8月グラスゴーの美術館でレンブラントの絵を見る

バラではレンブラントの絵を見られたが、グラスゴーまでは足を伸ばせなかった。反対方向へ行って、セントアンドリュースオールドコースでゴルフしたからである。両美術館ともそれぞれ2枚ずつ持っていたが、帰りに寄ったロンドンのナショナルギャラリーで13枚ものレンブラントを見て、大満足した。ハーグとアムステルダムでレンブラントを見たのが始まりで、ハンブルグ、ニューヨーク、川村美術館などで鑑賞した。17世紀の絵が今でも世界最高なのは何故だろう。また、ストラディバリとかガルネリのバイオリンは数百年前に作られ、楽器だから使われている筈なのに、何故今でも最高なのか、ずっと不思議に思っている。

1968-1970年 State University of New York College of Forestry (現

College of Environmental Science and Forestry) に留学し、世界最高の高分子合成技術を学んだ。工業化学科松崎研究室に持ち帰り、助手、講師、助教時代

この技術を駆使して、不可能と思われるような重合を成功させた。他大学の優秀な研究者から危ないから止めろと警告された、ルビウムやセシウムを反応させて、触媒を作ったこともある。共に融点が高室温に近く、直ぐに発火する。この真空重合技術も他の大学や研究室における高度な合成技術も、既に消滅した。今も科学技術振興機構、学位授与機構、2、3の研究助成財団の審査委員を務めているので、大学や研究機関の先端的研究には触れている積りである。

1997年〜2000年の3年間、特定領域研究「スーパー糖鎖分子」の研究代表をした時、糖鎖研究は今がピークだから、それを保つ努力をするようにと全員に注意を促した。

留学から持ち帰ったものに、もう一つゴルフがある。音頭を取って、のらくろ杯(岩倉義男教授)、たぬき杯(功刀泰碩教授)などのゴルフコンペを5号館に興じた。講師になり、40人位の教員で構成された東京大学工学部ゴルフクラブに入り、他分野の教授・助教と親しくなった。生産技術研究所教授時代、ゴルフ仲間の土木工学科岡村甫教授(現高知工科大学理事長)との共同研究で生まれたコンクリート混和剤は、開発会社が、

BASF子会社となったのは残念だが、

世界の60%位を占めるようになったと聞いている。東京大学工学部ゴルフクラブは若い講師以上の人達の加入がなく、消滅状態である。

大学を代表して、2009年ハルビン及び瀋陽の数大学、2010年韓国・晋州産業大学を公式訪問した。国及び大学の勢いとピークが隣の国へ行ってしまったと痛感した。

2010年念願のスコットランドゴルフ旅行へ7人の仲間と行った。生涯を通じてくじ運が滅法悪く期待していなかった、セントアンドリュースオールドコースの抽選に2回も当たった。7日連続のこのゴルフは私のゴルフのピークである。

科研費を費って、10年前前任地の帝京科学大学でハイテクセンターを作った時に始めた、セルロースからエタノールを作る研究を続けており、あとは実験すれば問題解決する。2010年6月セントルイスで開かれたエタノール会議のメインテーマは、この未解決研究であった。生産技術研究所教授として下に助手しかいなかったことが幸いし、好奇心と研究心を保っている。



## 総会議案

- ◆理事退任の件  
小宮山 宏 (昭和42年化学工学科卒)
- ◆理事選任の件  
伊藤 東 (昭和41年化学工学科卒) 次期会長  
安井 至 (昭和43年合成化学科卒) 次期副会長  
北森 武彦 (昭和55年教養学部卒)  
加藤 隆史 (昭和58年合成化学科卒)  
松野 祐治 (昭和60年化学工学科卒)
- ◆監事選任の件  
平尾 雅彦 (昭和56年化学工学科卒)

## 総会議案

### 《平成21年度会計報告》

収入の部	平成20年度繰越金	6,022,908
	年会費	101,440
	利息	1,603
	寄付	21,760
	第157回親和会余剰金	374,045
合 計	6,521,756	
支出の部	会報印刷費	502,421
	通信費(会報送料+郵便料)	779,957
	親和会組織化費	94,000
	大学院親和会支援費	98,700
	事務局運営費	1,818,243
	(経常経費+事務局経費+事務局員費)	
合 計	3,293,321	
繰越金	3,228,435	

# 5号館通信 No.4

化学システム工学専攻 専攻長・教授 大久保達也



前回の「5号館通信 No.3」は2006年春号掲載でしたので、この後4年間の動向を中心として5号館の化学・生命系三専攻の近況を紹介させていただきます。

2005年4月に化学システム工学専攻の教授であった小宮山宏先生が東京大学の第28代総長に就任され、以後4年間、法人化後の東大の先頭に立たれました。小宮山先生は2009年3月に満期で総長を退任されるとともに、東大を「卒業」されましたが、その後も益々お元気で活躍されていることは、親和会会員の皆様もよくご存知のことと思います。この間、平尾公彦先生（応用化学専攻）は副学長として総長を補佐され、また橋本和仁先生（応用化学専攻）は駒場の先端科学技術研究センター所長、西郷和彦先生（化学生命工学専攻）は附属図書館長、またその他にも学内の多くの要職に5号館関係の教員・卒業生が着任しました。

更に、北森武彦先生（応用化学専攻）が大学院工学系研究科長・工学部長に選出され、4月より工学系・工学部の先頭に立たれています。法人化後の東大は5号館関係者が牽引してきたと言っても過言ではないと思います。

次に、新3号館の建設と化学・生命系の移動に関する話題を紹介します。高度経済成長期まっただ中の昭和30年代後半、工学部の化学関連の組織が大きく拡張した時期に、関係各社の援助も受け、5号館は工学部の化学棟として建造されました。以来半世紀近い日々を経て、5号館の老朽化も進み、耐震工事をはじめとする数々の補強工事を行いながら今日に至っています。化学・生命系の研究・教育のレベルは世界の最先端を走っているものと自負しておりますが、残念ながら建物としての5号館の現状は厳しいものと言わざるを得ません。5号館の建て替えに関する話題は、随分以前より出ては消えておりましたが、弥生門前の3号館を取り壊し、新3号館を建設する案が決まり、これに伴い工学系の中でいよいよ化学・生命系にその順番が回ってきました。

残念ながら、今日の経済状況は5号館建設時とは大きく異なり、国からの援助もなかなか期待できず、また寄付をお願いすることも容易ではないため、工学系初のPFI事業で新3号館を建設することになりました。PFI（Private Finance Initiative：プライベート・ファイ

ナンス・イニシアティブ）とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法です。詳細は

[http://www.t.tokyo.ac.jp/fac01/b07\\_03\\_j.html](http://www.t.tokyo.ac.jp/fac01/b07_03_j.html)をご参照下さい。建設後には、借室料等の収入により、建設費を返還していかねばならず、大学においても、組織としての経営能力が求められる時代になって

ます。3年後の完成に向けて、既に旧3号館の取り壊しがはじまっていますので、11月の親和会総会の際には是非ご覧になって下さい。ただし、新3号館で化学・生命系に割り当てられた面積に、現在のすべての施設を移動することは無理な状況で、講義室や一部の研究スペースは5号館に残る予定です。現在、各専攻のフロアの割り当てがほぼ終了しました。3年後の親和会総会の頃には、卒業生の皆様にも新3号館をお披露目できるのではないかと期待しています。

最後に、学生の進路に関する話題を紹介させていただきます。No.3でも紹介させていただきましたが、学生の就職活動の早期化が大きな社会問題になっていきます。学生は大学院修士課程に入学して早々に就職活動をはじめなければならず、就職活動に多くの時間を割かれ、勉強や研究に多くの支障が出ています。これに対し西郷先生の呼びかけで全国の化学系32専攻・学科が連名で記者会見を開く、8大学の工学部長会議が声明を出すなど、正常化に向けた取り組みが進められてき

ました。

日本では修士課程修了後に企業に就職するケースが多いのですが、海外においては博士課程の卒業生が企業を含めた様々な分野で活躍しています。我々も大学のみならず、様々な分野で活躍できる博士の養成もきわめて重要だと考え、カリキュラムを改革するとともに、日々の研究を通じて学生たちにもこのことを伝えていきます。2008年12月には親和会主催の講演会「化学出身の産業人は今後どうありたいか」が開催され、瀬田重敏氏（1960年応用化学科卒・元旭化成株式会社専務取締役）より、学生に向けて、企業に入ったなら何が求められるかが紹介され、博士課程進学が薦めとのメッセージをいただきました。就職に関しては今も昔も先輩方のサポートは学生たちにとって大きな支えです。経済状況が厳しき折り、様々な面でのご指導、ご鞭撻を引き続きよろしくお願い申し上げます。

## お詫び

平成22年度版名簿がやっと発行の運びとなり、お申し込みいただいた皆様のお手元には既に届いていることと思います。

今回は校正に手間取り、予定より大分遅れましたことをお詫び致します。



# 恩師の想い出

「混系のすすめ」と「美学」

工学院大学教授

佐藤 光史 (昭和54年合成化学専攻修了)



吉川貞雄先生は、東大ポルト部でコックスを担ったスリムな体型の学生だったと伺い

ました。私が院生として配属頂いた頃には、その面影を探るのが難しい堂々たる体躯をされていました。しかし、身のこなしが柔らかいと感じたのは、かつてスリムなスポーツマンとして活躍された名残だったようです。確かに、先生が大切にされていた桑田勉先生と対談された記事中の写真で拝見した若き吉川先生は、気鋭の青年学者然としておられました(注)。副題にある「混系のすすめ」は、かつて吉川先生がある学術誌で巻頭言のタイトルにされた語録の一つです。社会の発展のために、文科と理科を融合することの意義を表された一文ですが、このようなCoordinateを随所で楽しんでおられました。「化学と工業」誌の編集委員長の時には、まったく畑違いの岡本太郎に巻頭言の執筆を依頼され、会員3万人が読むことを伝えたら書いてくれることになったよ、と嬉しそうな表情をされた

のが思い出されます。研究室のセミナーでは、皆が待つ中へ「Etrvas news」と「こ機嫌で登場されるのが常でした。

東大退官後は、慶応義塾大学教授を経て、本学の特別専任教授を、さらにそのご定年後の非常勤講師をお引き受け頂きました。化学の授業中での哲学的なお話には、理解の仕方です学生たちの評価がはつきり分かれていたようです。ある時、掛け合いで一緒に授業をやってみようやとの恐れ多いお誘いを受けました。「ダンチュウ」を知っているかかと問われた直後で、どこで聞いたかな?などと迷う程度でしたから、浅学がばれるのを恐れ、そのままにしたのが今にして悔やまれます。ダンチュウは、「男子厨房に入るべし」を掲げたまだ創刊間もなかった雑誌名で、自他ともに食通を認める先生らしい間だったのです。

その頃にあった本学の学長選挙に際しては、東大長補佐時代を思い出されたのか、「ああいう職は、やりたがっているやつにやらせたらだめなんだよ」と、いつもの調子でさらりとおっしゃっていました。塩野七生の著書を愛読しておられ、豊かな教養に裏打ちされた変わらぬ批評ぶりに納得したものです。完全なご

引退後は、都内中で切手を売り捌くのを楽しみにされていましたが、プロ並みに収集された数々を捌くには鬼籍に入るのが早過ぎました。気が付けば後ろにおられ、誰も気が付かないうちに姿を消してしまふ、先生特有の「美学」を完遂されたことは間違いありません。

吉川研での想い出の多くは、先生との巡り合いはもちろんのこと、矢野重信先生や仲間との出会いの場だったことと切り離せません。佐分利正彦先生、碓屋隆雄先生、村田隆先生、企業からの研究員に至るまで、絶妙な人材バランスの大研究室最盛期を過ごすことができました。おかげ様で若者と日々を過ごす身となり、当時体感した研究の楽しさを学生たちに伝えられているかを自己点検の基準にしています。期せずして本稿を寄せることになりましたが、東大後の先生のご様子を記すことが求められていると考え、諸先生、先輩や仲間たちへの相談もなく引き受けてしまいました。学部生時代に先生との貴重な想い出をお持ちの皆さんには大変恐縮です。近いうちに集まって、語り合えるのを楽しみにしています。



吉川貞雄先生

## 事務局のご案内

〒113-8656  
東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学工学部5号館内  
TEL/FAX: 03-5841-7400  
E-Mail: shinna@chem.t.u.tokyo.ac.jp

事務担当者 近藤 檀 (月・金)

## 編集後記

今年の11月23日(勤労感謝の日)に第159回親和会総会・懇親会を東京大学山上会館で開催いたします。今回は、昭和60年卒、平成7年卒の8名が幹事を務めており、楽しい企画を考えてくれています。実は私は昭和47年卒で同期はちょうど還暦を越えたところですが、みんな元気いっぱいです。12年前の親和会総会には同期30名が集まり、その後で近くの飲み屋で同期会を開いて大いに盛り上がりました。今回も親和会総会の後で「ポスト還暦同窓会」を企画しています。みなさんも親和会を活用して同期会を開いてはいかがでしょうか?

また、今年度は3年おきの親和会名簿発行の年に当たっており、10月末に完成します。是非多くの方に購入して頂きたいと考えております。

では、11月23日にお会いしましょう。

(記/尾嶋正治)